

平成 25 年度の川部会の活動進捗報告（案）

1. 川部会の目標とテーマ（課題）

川部会の 3 ヶ年の活動テーマを以下に示す。

（3 ヶ年の目標）

- 矢作川本川では、**現況把握・評価（カルテ作成）の取り組みを実践**しながら、**将来のあるべき姿（絵）を描く**
- 家下川では、実施中の活動の**取り組み効果を確認**し、**将来のあるべき姿（絵）を描く**とともに、**他の場所や他の支川への展開方法を検討**
- 地先の課題では、**関係機関調整の場の提供**と**（仮）専門家リストの作成・試行的運用、個別課題の情報共有、解決の方向性検討**の進展

<テーマ>

テーマ 1：
生き物の棲みやすい
川づくり（上下流問題）

テーマ 2：地先の課題

<解決手法>

本川モデル：課題と解決の方向性の検討、個別課題の取り組み

家下川モデル：課題と解決の方向性の検討、個別課題の取り組み

地先モデル：（仮）専門家リストの作成、個別課題の取り組み

2. 今年度の活動実績

本川モデル、家下川モデル、地先の課題モデルの全 8 回の WG を実施し、現地調査と意見交換を行った。今年度の活動実績は、以下に示すとおりである。

今年度の活動実績一覧

日時	場所	参加人数	活動内容	
5月17日（金） 9:00-11:30	・安永川合流点 ・渡合地区災害復旧	19名	第9回 WG （本川モデル）	・事業実施個所の現地確認
6月13日（金） 15:00-20:40	・家下川流域 ・豊田市職員会館	23名	第10回 WG （家下川モデル）	・H25年度活動計画について ・家下川の現地調査
7月12日（金） 13:00-18:30	・矢作川本川 ・豊田市職員会館	21名	第11回 WG （本川モデル）	・矢作川本川の現地調査 ・瀬淵、支川合流点について
8月26日（月） 18:00-20:00	・豊田市職員会館	21名	第12回 WG （家下川モデル）	・家下川下流域の段差解消・水源確保について ・矢作川の実施事業について
9月22日（日） 10:00-16:00	・矢作川本川 （地先の課題の現場）	20名	第13回 WG （地先モデル）	・活動団体の取組現場の現地調査について
10月18日（金） 13:00-18:00	・矢作川本川 ・豊田市職員会館	23名	第14回 WG （本川モデル）	・矢作川本川の現地調査 ・瀬淵のグループワーク
11月26日（金） 18:00-20:30	・豊田市職員会館	22名	第15回 WG （本川・家下川）	・瀬淵など川のあり方について ・家下川の最近の動向について
12月20日（水） 18:00-20:30	・豊田市職員会館	20名	第16回 WG （3モデル）	・本川、家下川、地先の課題のとりまとめに向けて

3. 各テーマの活動進捗と課題

今年度に取り扱った主な活動進捗と課題について、川部会のテーマに沿って以下にまとめる。

<テーマ>	<今年度の活動>	<活動の進捗>
<p>本川モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生き物の移動阻害 ②アーマーコート化 ③微地形の多様性 (瀬淵・ワンドなど) ④在来種の減少 ⑤外来種対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第9回WG (安永川合流点、護岸の災害復旧事業の現場確認) ・ 第11回WG (支川合流点の段差確認) ・ 第14回WG (瀬淵のグループワーク) ・ 第15回WG (瀬淵など川のあり方) ・ 第16回WG (とりまとめ) 	<ul style="list-style-type: none"> [①進捗] ・ 安永川の樋門整備に対する提案 (護岸覆土、魚道・トンネル部の河床) ・ WGで取り組む場所の選定(加茂川) [②⑤進捗] ・ 瀬淵,ワンドの情報共有 ・ 「矢作川の河川環境の方向性」についてとりまとめ [③進捗] ・ 外来種の情報共有
<p>家下川モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ①情報不足 ②生き物の移動阻害 ③生き物の棲みかの不足 ④水量不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第10回WG (家下川の現地調査) ・ 第12回WG (家下川下流域の段差解消・水源確保について) ・ 第15回WG (家下川の最近の動向について情報共有) ・ 第16回WG (とりまとめ) 	<ul style="list-style-type: none"> [①進捗] ・ 水位の確認、変更排水計画の確認 [②進捗] ・ 矢作川合流点の段差改善(矢板切欠き)後の現地確認、改善効果の情報共有 ・ 家下川下流域の段差改善の検討 [③進捗] ・ 越冬マス設置効果の情報共有 [④進捗] ・ 長池の水源確保・水質改善の検討 ・ 地下水利用の検討
<p>地先の課題モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ①活動環境の課題 ②活動推進上の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第13回WG (活動団体の取組現場の現地調査) ・ 第16回WG (とりまとめ) 	<ul style="list-style-type: none"> [①進捗] ・ 活動団体にヒアリング ・ 個別課題の解決策について情報共有 [②進捗] ・ 活動団体にヒアリング ・ 専門家リストの情報収集

(1) 本川モデル

■今年度活動により分かったこと

① 生き物の移動阻害（本支川の合流箇所）について

《生き物の移動阻害の実態》4か所の支川合流点を調査

- 安永川では、浸水被害の解消を目指し改修事業が実施されている。豊田市街地から2kmのトンネルを通過して矢作川に至り、樋門の段差を解消するため魚道が設置されている。
- 市木川の農業用水路への段差は大きく改善の検討が難しいことが確認され、加茂川は、水門段差以外に移動阻害となる要因がないことが確認された。
- 大見川では、豊田市による多自然川づくりが展開中である。



安永川排水樋門での意見交換の様子



加茂川水門の段差の状況



大見川合流部の段差の状況

《提案・確認事項》工事实施箇所への提案実施、WGで取り組む場所を選定

- 安永川合流箇所に対して、「**魚道内に砂利や碎石積み**」、「**トンネル部の河床の工夫**」、「**取り付け護岸のコンクリートの覆土**」を提案した。
 - ⇒ 一部護岸に覆土実施。（国交省対応）
 - ⇒ 安永川通水後にモニタリングをし、対応を検討。
- 渡合護岸補修工事の延長の大きいコンクリート護岸とブロックによる根固め工に対して、**現場レベルで自然環境への影響を少しでも軽減できるよう提案**した。
 - ⇒コンクリート護岸の延長縮小、ブロック工から捨て石工に変更（国交省対応）
- 今後、**WGで加茂川水門の段差解消に取り組み**、大見川については、豊田市の検討状況を確認していくこととした。

② 微地形の多様性（良い瀬淵・ワンド）について

《微地形の多様性の実態》瀬・淵、ワンドの現状を確認

- 高橋上流～箆川合流点は、瀬・淵が交互に連続して現れる区間である。
- 豊田大橋～高橋下流は、瀬がほとんどない単調な区間であるが、右岸側のワンドにより多様な場の形成につながっている。
- 豊田大橋下流は、4箇所に分かれて瀬が現れ、アユ釣り客が集まっている状況が確認できた。
- 久澄橋下流は、明治用水の溜水区間でもあり、縦断的な変化に乏しい。白浜工区の低水路護岸を固めない順応的管理の試みは、横断的な変化を与える取組みになっている。



現地調査の様子



豊田大橋下流の瀬の状況



台風18号の出水後もワンド形状は保持

《提案・確認事項》「矢作川の河川環境の方向性」についてとりまとめ（※詳細は、次頁参照）

- 矢作川の河川環境の目標を、「**多様な物理環境と生物生息環境を目指すこと**」とし、多様な視点（動植物、魚、利用者など）が必要であることを指摘。
- 目標達成に向けて、**低水路幅の取り扱いがキーポイント**である。**白浜工区の順応的管理手法の経過を観察**し、低水路幅拡幅後の河道の応答状況を確認していくこととした。（度合地区対岸の直線水路とワンドを実験ヤードとすることも考えられる。）
- 瀬淵やワンドの状況を把握し、**保全エリアと手を加えるエリアを示すMAPを作成**し、保全と人の利用がどの割合であるとよいかについて検討する必要がある。
- 情報共有が必要なこととして、土砂の情報（越戸ダムからの流下土砂、越戸ダムの堆積土砂）、詳細な河道地形情報などが挙げられる。

■ 矢作川の河川環境の方向性について

1. 本川モデル7・8回で共有できたこと

目標：多様な物理環境と生物生息環境を目指すこと

- ① 動植物にとって、魚にとって、利用者（人）にとってなどの観点でブレークダウンして整理する必要がある。

目標の達成に向けて

- ① 瀬・淵・ワンドなど河川の現状について、微地形の時間の変化（攪乱頻度）、距離の変化の観点で把握する必要がある。
- ② 低水路幅の取り扱いが一つのキーポイントであり、白浜工区（順応的管理手法）の経過を観察し、低水路幅の拡幅後の河道の応答を確認していく。
- ③ 治水上の制約を前提として、矢作川の河川環境の多様性を保全・創出していくための解決策について検討していく。（②で得られた知見を今後実施される河道拡幅事業等に活用）
- ④ 上流の境界条件がわかれば、短期的な河床変動予測は可能である。（河床変動の長期的な予測は困難であること。）
- ⑤ 矢作川の河川環境を把握するための基礎調査（地形測量、粒径等）が必要であり、各管理者の協力が必要である。

2. 情報共有が必要なこと（まだわかっていないこと）

- ① 越戸ダムから流下してくる土砂の情報（供給量、粒度分布など）
⇒土砂管理検討委員会に依頼
- ② 土砂管理検討委員会で越戸ダム下流の環境をどう考えているかの情報。
⇒土砂管理検討委員会に依頼
- ③ 越戸ダムの堆積土砂の情報（粒度分布など）
⇒中部電力、国交省・愛知県に依頼（それでも難しい場合にWGで検討）
- ④ 国交省と愛知県が連携した継続的な調査の実施（河道横断測量、河床材料など）
⇒国交省と愛知県に依頼
- ⑤ 低水路幅拡幅による河道の応答 ⇒ 白浜工区をモニタリング

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉	
① 生き物の移動阻害（本支川の合流箇所）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎調査を元にした現地調査の実施、カルテ（案）作成 ・ カルテ（案）に基づく現状評価の実施（支川上流も対象）
② 河床のアーマーコート化と近年後の変遷について（③とも関連）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も総合土砂管理検討委員会、各ダム管理者との連携・情報共有を基本 ・ 可能であれば、詳細な検討の実施（例：必要な土砂の粒径など）
③ 微地形の多様性（瀬・淵、ワンド）について（②とも関連）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎調査を元にした現地現状調査の実施、カルテ（案）作成 ・ カルテ（案）に基づく現状評価の実施（場と認識の共有） ・ 可能であれば動態の技術的な検討 ・ 良い瀬淵・ワンドの維持・復元に向けた提言
④ 在来種の減少について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在来種の生息状況について情報共有を促進 ・ WGメンバーで「本来、どんな魚や生物がいるべきか」を検討（情報資源活用）
⑤ 外来種対策について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来種の最新の動向について情報共有 ・ 外来種の駆除活動に参加し、WGメンバーで駆除方法等の改善を検討



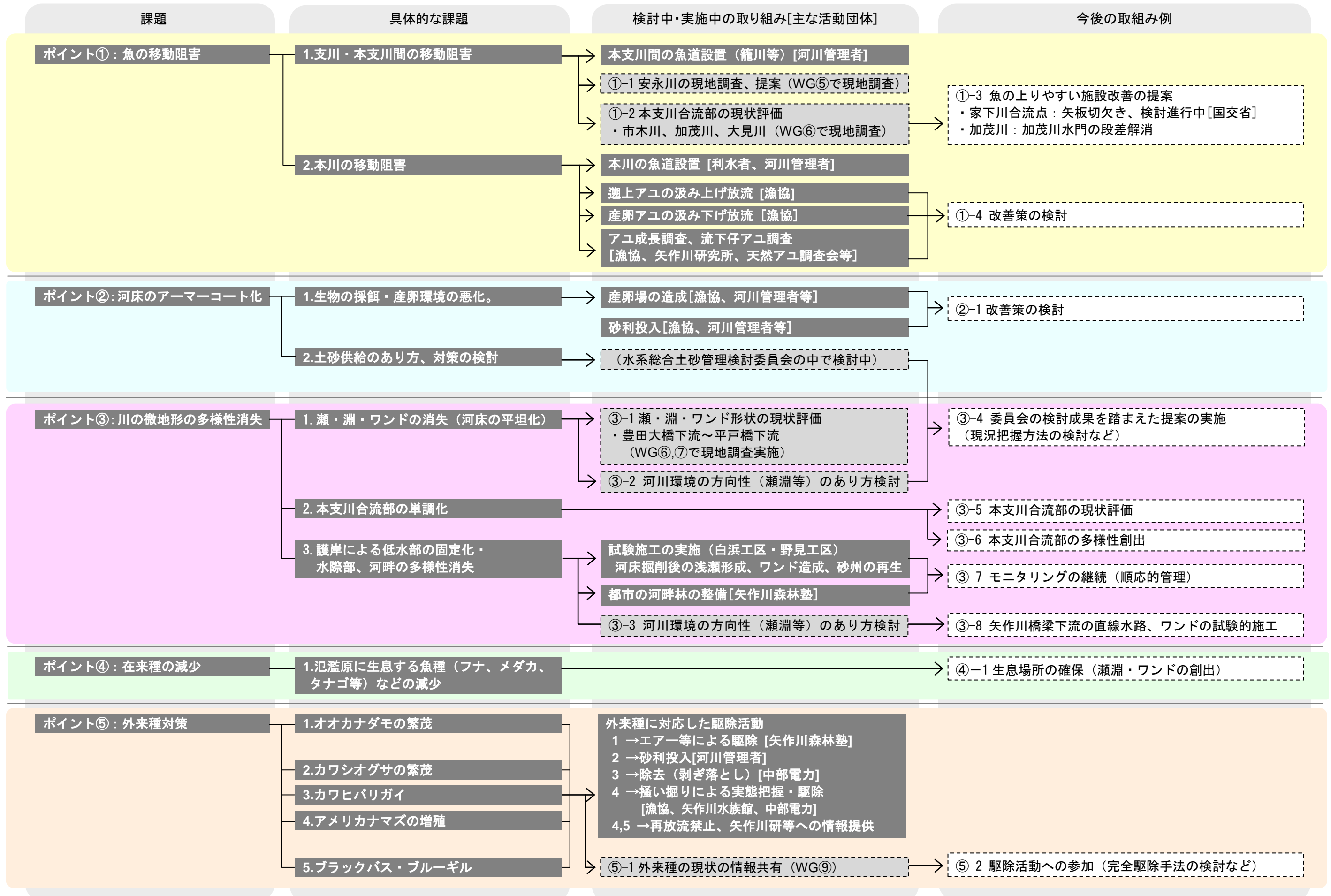
<p>〈活動進捗状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WGで支川合流箇所の現地調査を実施し、WGとして今後検討していく場所（加茂川合流点）を選定できたが、カルテ（案）作成については未着手。 ・ 土砂管理検討委員会に向けての提案事項となる「矢作川の河川環境の方向性」についてとりまとめ。カルテ（案）作成については未着手。 ・ 外来種について、オオカナダモやアメリカナマズ等の情報共有は行ったが、具体的な活動は未実施。 ・ 河床のアーマーコート化、在来種の減少についての検討は、未着手。
--

■今後の課題

- 本支川の合流箇所や瀬・淵、ワンドのカルテ（案）を、どのような体制で作成し、現状評価を実施していくか。
- 本支川合流検討箇所（加茂川合流点）に対して、どのようなアプローチで取り組むか。
- 情報共有の進まない土砂問題に対して、どのように進めていくか。

■ 本川モデルの「課題と解決の方向性について（案）」

(本表は、WGの進行に合わせて随時修正予定)



(※第16回WG・第5回川の地域部会までに出された主な意見を反映したものであり、今後精査が必要である。)

(2) 家下川モデル

■今年度活動により分かったこと

① 生き物の移動阻害について

《生き物の移動阻害の実態》

- 矢作川本川との合流点にある矢板の一部を切り欠き、通水の状況や生き物の移動阻害の状況を確認。矢板上流側でアユやテナガエビが採集できたことから、本川と家下川がつながっていることはわかった。ただし、流量が少ない時には、移動阻害が起きている可能性あり。
- 家下川ー承水溝ー長池の移動阻害の状況について、水位やゲート敷高の高さ関係を整理。
 - ・承水溝の水位は家下川自然ゲート敷高（16.8m）が水深を決めている。
 - ・長池は、宗定川自然ゲート（敷高 17.4m）により、流れがつながるかどうかが決まる。



家下川合流点段差改善箇所



承水溝ー矢作川の合流箇所



長池ー承水溝の段差

《提案・確認事項》承水溝ー長池の移動阻害を優先検討事項に。

- 排水機場の改修に伴い、**承水溝ー長池の段差改善の可能性を検討することを優先検討事項**とすることを確認した。
- **矢板切り欠き箇所は、モニタリングを継続**し、対処が必要な場合には再度検討することとする。

② 生き物の棲みかの不足について

《生き物の棲みかの不足の実態》

- 家下川リバーキーパーズの活動報告により、「草の植え付け」「越冬マス」「ブロック水制・堰（越冬場所）」の設置効果を情報共有した。
- 越冬マスの設置効果は大きく、12/1の活動（合計の網入れ時間約2分のかい掘り調査）で、14種、約3200尾の魚を採捕。（絶滅危惧種のスジシマドジョウも生息）
- 草の植え付け箇所は、出水により流出してしまった。
（コンクリート3面張りの水路に土砂や植生を堆積させるのに苦労している状況）
- 承水溝の水位は浅く、冬場は数cmになることから魚は越冬しにくい状態である。



採集の様子



魚の観察の様子

《提案・確認事項》承水溝の浚渫に対して提案

- 土地改良区が行う**承水溝の浚渫に対して提案**していくことを確認。

③ 水量不足について

《水量不足の実態》

- 宗定川の流量がなく、長池の水源は雨水がほとんどであり、水量不足に伴い、水質も悪化している状況である。
- 承水溝の水位は浅く、冬場は数 cm になることから魚は越冬しにくい状態である。

《提案事項》

- 水源としての**湧き水の活用**、水を流すルートとして**下水道管渠や用水路の活用等の提案**を行った。
- 提案の実現可能性について、検討していく必要があることを確認した。

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉
① 生き物の移動障害について
<ul style="list-style-type: none">・ 移動障害箇所の情報収集・ 当面の段差解消方法の検討
② 生き物の棲みかの不足について
<ul style="list-style-type: none">・ 「草の植え付け」「水田魚道」「越冬マス」「ブロック水制・堰（越冬場所）」などの設置効果の確認・ その改良方法や他の場所への展開の検討
③ 水量不足について
<ul style="list-style-type: none">・ 水源（家下川、農業用水、地下水など）の情報収集・ 水量確保の様々な可能性の検討



〈評価のまとめ〉

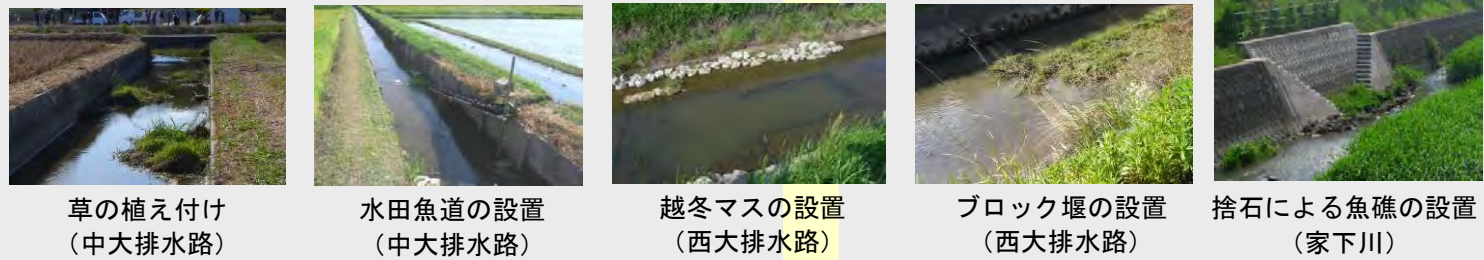
- ・ 生き物の棲みかの不足に対する**対策の効果について情報共有**することができたが、その改良方法や他の場所への展開については未着手。
- ・ 水位やゲート敷高等の高さなど**移動障害箇所の情報収集**を行ない、**段差解消方法について検討**することができた。（今後、より具体的な検討を実施する予定）
- ・ 水源の情報収集を行い、長池（ひょうたん池）の水源確保の可能性を検討することができた。

■今後の課題

- 承水溝－長池の段差改善や承水溝の浚渫の提案について、管理者と連携しながら、解決策を検討する必要がある。
- 水源確保については、より詳細な情報収集が必要である。

■ 家下川モデルの「課題と解決の方向性について（案）」

(本表は、WGの進行に合わせて随時修正予定)



(※第16回WG・第5回川の地域部会までに出された主な意見を反映したものであり、今後精査が必要である。)

(2) 地先の課題モデル

■今年度活動により分かったこと

① 活動環境に関する課題について

《活動環境に関する課題の実態》

- 日常管理は活動団体が担っているが、台風など被害が大きく地元の手に負えない場合は、行政が柔軟に対応している。
- 大きい工事（管理用通路、広場整備など）は行政が行い、その後の利用や維持管理は、地元の活動団体が頑張っている状況である。矢作川研究所が調整役として活躍し、その契機となった。



小渡水辺協議会との意見交換



維持管理による利用しやすい河川空間

《提案・確認事項》

- **民間と行政が屈託のないやりとり**を行っていくことが、活動をうまく進めていくコツである。
- 活動を軌道に乗せるには、矢作川研究所のような**行政と市民の間に立つ調整役**が必要か、また、どのように体制を構築していくかについて今後検討していく必要がある。

② 活動推進上の課題について

《活動推進上の課題の実態》

- 豊田市では、実績を積んだ活動団体（現在 18 団体）を登録し、維持管理活動に対して、報償費を支払っている。
- 古巣水辺公園では、土日の利用客が多いことに対応し、日～月曜日に見て周り、いい状態に保つようにされている。
- 御立公園（白浜工区）では、活動団体がアドプト制度を活用（機材の支援等を受けて）して活動している。豊田東高校と連携するなど若い世代にも活動の輪が広がりつつある。



古巣水辺公園での意見交換



御立公園の将来に残す高木の稚樹
（しるしをつけて管理）

《提案・確認事項》

- 市民中心の活動であっても、継続した活動としていくためには、**行政のバックアップが重要**であることを確認した。
- 活動場所をきれいに保つことが、マナー違反の抑止につながることを確認した。
- マンパワー不足に対して、**地元の若い世代との連携**が有効である。

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉	
① 活動環境に関する課題について	<ul style="list-style-type: none">・ 地先の課題の抽出（活動団体、関係団体へのヒアリングも検討）・ 個別課題の情報共有と解決の方向性検討
② 活動推進上の課題について	<ul style="list-style-type: none">・ 河川空間利用に関する調整（関係機関、市民意見の反映）の場の提供・ （仮）専門家リストの作成・試行運用
③ モデル運営上の課題について	<ul style="list-style-type: none">・ 地先の活動団体等のリスト化



〈評価のまとめ〉	
	<ul style="list-style-type: none">・ 昨年度（主に岡崎市）に引き続き、豊田市の活動団体のヒアリングを実施。・ 河川空間利用に関する調整の場について、家下川モデル自体が課題解決に向けての調整の場となっている。・ （仮）専門家リストの作成について、情報収集は行なったが、今後、一般に利用できるリストとして整理する必要がある。・ 矢作川流域に関わる地先の活動団体は、これまでにストックしてきた情報はあるものの、十分にリストアップできているとは言えない状況である。

■今後の課題

- 地先の課題の全体像が明確になっておらず、活動団体等へのヒアリングを通して、地先の課題を引き続き抽出する必要がある。（活動団体の掘り起こしが必要）
- 個別課題の検討や関係機関の調整の場を、どのように提供していくか。

4. 他部会との連携における活動進捗と課題

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針からみる取り組み状況〉

- ・ 魚の移動阻害について、**情報共有**を行っていく。（山・海との連携）
- ・ 生き物の棲みか（河床アーマーコート化、瀬淵など）に**影響を与える土砂管理**について、引き続き、**情報共有**を行っていく。（山・海との連携）
- ・ **各部会が集まる勉強会等で情報共有し、流域全体のあり方を考える。**



〈評価のまとめ〉

- ・ 魚の移動阻害について、まず、**川部会で情報共有**を進めているところであるが、山・海との連携には至っていない。
- ・ 土砂管理について、総合土砂管理検討委員会の結果を受けて、検討を進める予定であり、検討は未実施。

■連携上の課題

- 山・川・海が連携できるあつまりの場が必要



発行日：平成 25 年 6 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆H25年度の川部会WGがスタートしました！

矢作川流域圏懇談会の新たな3年間のサイクルの始まりです。H25年度最初の川部会WGの活動は、市民提案による開催となり、5月17日に第9回の活動が行なわれました。市民や学識経験者、行政などの方々が参集し、多くの議論がなされました。

日時：平成 25 年 5 月 17 日（金）9:00～11:30
場所：安永川排水樋門、
渡合地区災害復旧事業現場付近
参加者：19名（事務局含む）

◆主な意見交換内容

1. 安永川改修事業、及び安永川排水樋門について



安永川改修事業、及び安永川排水樋門について、豊田市建設部河川課の須藤氏より、説明を伺いました。

- 豊田市街地は標高が低く、水がたまりやすい地形で、S.37年やH.12年の豪雨で浸水被害を受けたことが事業の契機となった。
- トンネル部の流下能力は、現況 $10\text{m}^3/\text{s}$ (S.10-16に整備) から $90\text{m}^3/\text{s}$ に改修する計画で進めている。
- トンネルより上流区間や下流区間は、自然環境に配慮した川を整備する予定である。

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

- ・樋門下流の整備した魚道に、魚は上りそうか。(碓)
- ・2kmの暗いトンネルを通過して豊田市街地までいけるか。(阿部)
 - ▶ この魚道やトンネルを通して、魚が豊田市街地まで遡上して欲しいという思いで整備している。実際に魚が遡上してくれるかは、まだわからない。(栗木)
- ・取り付け護岸のコンクリートが目立ちすぎて、上下流の護岸と同様に覆土できないか。(阿部)
- ・魚道内に碎石を積んで、スロープ状とすれば、アユだけでなくいろんな生き物が上れる可能性があるのでは。(光岡)
- ・上流に魚を上らせるのであれば、トンネル内も同様に、河床を工夫する必要がある。(阿部)
- ・安永川合流部下流には、明治用水頭首工下流においては貴重な良い瀬がある。本流への影響は考えられているか。(阿部)
 - ▶ まだ通水していない状態なので、通水後の状況をモニタリングしながら、対応を考えていきたい。事業が完成した後であっても、手をつけられないとは思っておらず、工夫してより良いものにしていきたい。(栗木)
- ・整備する時には、漁協だけでなく、様々な立場の人に意見を聞けるとよい。(碓)
- ・取付け水路は水深があり、樋門側からトンネル内部にも侵入できてしまうため、子どもの安全対策が課題である。(小林)



安永川排水樋門での意見交換の様子



安永川合流点下流の瀬の様子

2. 渡合地区の災害復旧事業（護岸改修）について



渡合地区の災害復旧事業（護岸改修）について、国土交通省豊橋河川事務所岡崎出張所の小林所長より、説明を伺いました。

- 左岸側への水あたりが弱まるよう、低水路右岸側の州を掘削して、水路をつくった。
- 今は直線の水路であるが、残った州や水路を利用して、ワンド等の実験場とすることも可能と考えている。
- 左岸側は、災害復旧事業により護岸改修したもので、整備する区間は、上下流にもう少し延長される予定である。

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

（・意見 ▶ 回答）

- ・整備された護岸の規模が相当大きく見えるが、本当に必要なのか？安全率を高くみ過ぎているのでは？（内田）
 - ▶ 今回の護岸整備箇所は、元々急傾斜で、背後地は石混じりの砂質のため、工事がかなり大変な場所であった。（小林）
 - ▶ 上段部分は、マットとシートを貼っているだけで、今後、芝張り等を行う予定である。（小林）
- ・下段のテトラポットと中段のコンクリートブロックは問題である。ただウナギなどは生息できるかもしれない。
- ・提供資料の航空写真の経年変化を見ると、昔は、濡筋の片寄りは見られないが、ここ10年で岩が顕れ、濡筋は左岸側に变化してきているように見える。河床が低下した影響ではないか。（内田）
- ・ワンドなどの実験場とするのは、おもしろいと思う。（高橋伸）
- ・この付近は、河床低下が大きい場所でそれでも治水上問題となっている場所である。右岸側の樹林地も含めて、広い範囲で考える必要があるのではないか。（内田）



渡合地区対岸での意見交換の様子



渡合地区の災害復旧の様子

第10回川部会WGのお知らせ



次回は、家下川の取り組み状況を現地視察した後、場所を移動して、川部会WGの今年度の活動計画などについて、意見交換を行います。当日は、柳川瀬公園駐車場（ひょうたん池北側）に15時集合です。第1部のみ、第2部のみ参加も可能ですので、お時間の都合のつく方は、是非参加ください。

日時：平成25年6月13日（木）15時～20時

○ 第1部：家下川現地視察

時間：15時～17時

場所：家下川（集合場所：柳川瀬公園駐車場（ひょうたん池北側））

○ 第2部：意見交換（川部会WGの今年度の活動計画などについて）

時間：18時～20時

場所：豊田市職員会館2F 第1会議室

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。





発行日：平成 25 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 10 回川部会 WG を開催しました！

6 月 13 日に矢作川流域圏懇談会第 10 回川部会WGは、家下川流域の現地調査と、市民や学識経験者、行政などの方々が参集し、多くの議論がなされました。

日時：平成 25 年 6 月 13 日(金) 15:00～20:40

調査場所：家下川流域

会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室

参加者：19 名（事務局含む）

◆WGで議論した主な内容

【家下川の課題と解決策について】

- 家下川一承水溝一長池の関係の理想形を考える必要がある。そのために、各ポイントの水位の状況を確認することとした。
- 水源確保について、用水系統の運用や家下川本川の導水の可能性（物理的な高さ等）を確認できるとよい。
- 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護を検討していることの報告があり、その状況を確認した。

【川部会の活動の方向性について】

- 川部会WGで提言したものが、管理者に伝わっていることがアクションの一つである。
- 川部会WGの活動を積極的にPRし、エビデンスになるようにしてほしい。
- 川部会WGでは、国・県・市で実施する事業があれば、議論し提案できる場としたい。3モデルの対象エリアにとらわれず、提案があればレスポンスできる体制としたい。



長池での意見交換の様子



長池一承水溝の段差



承水溝前での意見交換の様子



承水溝一矢作川の合流箇所



家下川合流点段差改善箇所



家下川合流点の導流堤

第 1 部：家下川現地調査



(1) 柳川瀬公園付近（長池一承水溝一家下川）

矢作川水族館の阿部氏より、長池の状況について説明を伺いました。

- 長池に水が供給されると、水位は例年より高くなり、水質はかなり改善される。
- 長池には流れがほとんどないため、魚の産卵地にはなっていない。
- 長池一承水溝一家下川の平常時の水位が異なることが、問題である。

【意見交換】

（・意見 ▶ 回答）

- ・家下川一承水溝一長池の理想形を考えておく必要がある。（光岡）
- ・用水系統の末端に近いので、運用で水源を確保できる可能性はある。家下川などから水源確保可能か、物理的な高さについて、確認することができればよい。水利権について、今後整理が必要である。（鷺見）
- ・水源となる水は余分があれば流してほしく、常時必要なものではない。（阿部）
- ・長池にどの程度の流量があるとよいか、わかるとよい（鷺見）
- ・承水溝のポンプ場付近は、公園の砂が流れ込み陸地化しそうな状況である。ポンプ改修と合わせて、浚渫できる可能性がある。（阿部）
- ・承水溝と家下川は、小トンネルでつながり流れがある。以前に、承水溝の水位を上げたときは、トンネル手前に角落としを入れて堰上げした。（阿部）

(2) 家下川合流点の段差改善箇所

国土交通省豊橋河川事務所の新高副所長より、家下川合流点の段差改善について説明を伺いました。

- 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。
- 昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護（袋詰め玉石など）を検討している。

(3) 県・市管理境界付近

(・意見 ▶ 回答)

- ・明治用水の耐震改修に合わせて、明治用水下の暗渠部の断面を大きく改修する予定であり、用水管理者と調整を始めている状況である。
- ・明治用水下のトンネルは、歴史遺産として保存してほしいという話がある。



県・市管理境界上流の様子

第2部：意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

- ・川部会の3ヶ年、あるいは当面の1年についていかがか。(鷺見)
- ・川部会としては、何をアクションと捉えて活動するか。(光岡)
 - ▶ WGで提言したものが、管理者に伝わっていることがアクションの一つである。(鷺見)
- ・白浜工区の事業のように、国、県、市の事業に対して提案していくことが成果とできるとよい。(内田)
 - ▶ 懇談会は元々、整備計画で位置づけて開催しているので、本来の趣旨に則したものと言える。(新高)
 - ▶ それを積極的にPRし、エビデンスになるよう明示してほしい。国、県、市で実施する事業としてあれば提示いただき、議論し提案する場としたい。(鷺見)
- ・安永川や渡合地区の災害復旧事業が、懇談会を通さずに行われたことが、今後の課題である。(光岡)
- ・モデルというフレームワークをどうするか。本来の家下川モデルや本川モデルからはずれるエリアでも同様に、議論の対象にできないか。(鷺見)
 - ▶ 現場としては、工事のスケジュールもあるので、早急に皆さんとお話したいと思っている事案がある。(小林)
 - ▶ 事務所で今年度やろうとしている事業については、WGの中でご説明したい。(新高)
 - ▶ 家下川の場合、水位を上げようとした場合に、どの程度の水位がよいか、検討できればよい。(阿部)
 - ▶ 安城市では、多自然川づくりの事業を毎年少しずつ進めている。ここで議論することが問題なければ、提示して議論いただきたい事案がある。(早川)
- ・WGは、3モデルの対象エリアにとらわれず、自由度のある中でやっていきたい。ただし、関わり方は、これまで検討してきたモデルのように取り組むことはできないが、提案があればレスポンスできる体制としたい。(鷺見)
- ・生き物に配慮するといっても、決定的な工法がないのが現状である。個々の対応も必要だが、基本を考えておく必要もある。(本守)
- ・まず、今できる工法がどういうものがあるか考える必要がある。(鷺見)

今後の川部会 WG の予定



■第11回(本川モデル)

日時：平成25年7月12日(金) 13:00~19:30

○本川現地視察：瀬・淵、合流箇所

○意見交換

場所：豊田市職員会館2階 第1会議室

■第12回(家下川モデル)

日時：平成25年8月26日(月) 15:00~18:00

場所：未定



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。





発行日：平成 25 年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 11 回川部会 WG を開催しました！

7 月 12 日に開催された第 11 回川部会 WG では、瀬淵やワンド、砂州、支川合流点の現状を確認し、情報共有を行いました。また、「瀬・淵について」「支川合流点について」「次回以降の活動について」「今年度発注工事について」などの各課題と解決策について話し合いました。

日時：平成 25 年 7 月 12 日（金）
13:00～18:30

調査場所：矢作川本川（瀬・淵、合流箇所）

会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室

参加者：21 名（事務局含む）

◆WG で議論した主な内容

- 瀬淵やワンド、砂州など、横断的な変化が形成されるには、低水路の川幅の広がりが必要であり、生物の生息環境にとって、水深が確保されている必要があることを確認した。
- WG メンバーの活動として、加茂川の段差改善の検討を行うことを確認し、大見川については、豊田市の検討状況を確認していくこととした。
- 期限（8/28）までに役員改選を行い、第 3 回全体会議で事後確認を行なう予定とする。
- 国交省の今年度発注工事のうち、樹木伐採と高水敷の掘削方法について、個別に WG メンバーから意見をいただくこととした。

第 1 部：矢作川本川現地調査



【意見交換】

（●意見 > 回答）

（1）豊田大橋周辺の瀬淵、ワンド、砂州

- 州や瀬の前衛線が見える。このあたりの区間は州が交互に張り出している状態で、大きな洪水があると砂州が動く。（鷺見）
- 1999～2000年の洪水で瀬がはっきりした形になった。それまでは明確な瀬ではなく、戦後は河床が砂だったため、アユが釣れなかったと聞いている。（内田）
- ピアにあたる部分に立派な瀬があったと聞いている。（本守）
- ドビケラなど底生生物が、河床を固めている要因の一つである。（内田）
- 豊田大橋上流のワンドは、1999年の出水でできた。（内田）
- 川幅が広がると州がしやすい。この付近は、対岸が広がることを許容しているので、固定的な砂州ができていく。（鷺見）

（3）高橋上流の瀬淵

- 左岸側に昔の大きな石の水制があり、魚の生息場所として重要である。（内田）
- 流れてくる土砂量と流量が同じなら、川幅は広いほうがよく、この場所では、川幅が広がると瀬ふちのメリハリができると思う。（鷺見）
- 右岸側の整備当初は人工的印象だったが、植生が生えていい状態になった。（内田）

（4）市木川の支川合流部

- 市木川の下流部、市街地の中にある落差工について、魚道を計画している。昨年検討を実施し、今年工事予定である。（高橋好）

（5）加茂川の支川合流部

- 加茂川合流部の段差は改善しやすく、WG メンバーでの活動も可能である。（内田）
- 加茂川上流部まで落差工に魚道が設置されており、この段差を解消すれば連続性ができる。（高橋好）

（6）大見川の支川合流部

- 下流域が東海豪雨で浸水被害を受けた。川幅が約 9.5m（管理道を含めると 28m）になり、多自然川づくりに則って整備する予定。地元とワークショップを行いながら、検討している。（北村）
- 上流を改修すると、合流部のゲートがボトルネックにならないか。（鷺見）



豊田大橋下流の瀬の状況



高橋上流の瀬を確認する様子



市木川での意見交換の様子



加茂川水門下の段差の状況



大見川合流部の段差の状況

第2部：意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

(1) 瀬・淵について

- 今日現地調査した時に、豊田大橋下流には釣り人がいた。瀬にも、良い悪いがあると思うが、良い瀬とはどういうものか。(本守)
- 浅すぎるとアユの安定した縄張りができにくいと聞いている。(内田)
 - ▶ 河川整備基本方針では、魚の移動や産卵場に必要最低水深が設定されている。(西原)
 - ▶ 渡合地区の場合、漁協から水深 80~90cm 程度必要と聞いた。(小林)
- 瀬だけでなく、それに付随する淵やワンドがあり、いろんな種類の魚がすめることが大事と思う。懇談会として、どういう状況を目指すか。そのために、低水路の幅がどの程度であるとよいか。(内田)
 - ▶ 低水路幅を広げると、横断的な高低差が出やすいと考えられる。河床が動くのは毎年ではなく、洪水により河床が動く可能性を念頭に検討を進める必要がある。また、河畔林のような場所もセットで考える必要がある。(鷺見)

(2) 支川合流点について

- 市木川本川について、地元から魚道設置の要望があったことから始まり、昨年度に魚道の実施設計、本年度に工事予定である。(高橋好)
- 今日のWGで魚の専門家がいるとよかった。特徴的な魚がいるかどうか基本的な情報があるとよい。(内田)
- 市木川周辺はいい環境ではあったが、現状では段差改善の提案はなかなか難しいと考える。(鷺見)
- 大見川の落差は、カワムツなど遊泳力のある魚には、ほとんど障壁になっていないと思う。(内田)
- 大見川の整備で樹木等は植える予定か。川幅があるので、いろいろ考えられるのではないか。(鷺見)
 - ▶ 基本的に、魚が棲めるようにとは考えている。(北村)
 - ▶ 水質は悪くないと聞いている。うまくつくれば、子どもが遊べる場所になるのではないか。
- 加茂川下流も、竹を伐採すればちょうどいい空間がある。(鷺見)
 - ▶ 加茂川本川の水質はよく、アドプト制度で竹を伐採しているところである。(小林)
- 市木川の段差解消は、すぐには難しそうであり、大見川は豊田市から紹介いただいた計画について考えたい。加茂川の合流点の段差改善には可能性があり、今後検討していくこととしたい。(内田)

(3) 改選の進め方について

- 期限(8/28)までに役員改選を行い、第3回全体会議で事後確認を行なう予定としたい。鷺見先生は、物理的に時間が確保できないなどの理由から責任ある立場からは降りたいという申し出があった。(西原)
- 学識者メンバーとして残りながら、瀬淵や家下川の課題に関わっていききたい。(鷺見)

(4) 今年度発注工事について

- 今年度予定している樹木伐採と高水敷の掘削の仕方について、ご意見をいただきたい。樹木管理の手引きに従って実施していきたいと考えている。また、樹木抜開体験会の開催や近隣の学区との維持管理の協働を考えたい。(小林)
- 第10回WGで説明した渡合地区対岸のワンドの実験ヤードとしての利用や安永川樋門周りのブロックの覆土についても考えていきたい。(小林)

今後の川部会 WG の予定



■第12回(家下川モデル)

日時：平成25年8月26日(月) 15:00~18:00
場所：豊田市職員会館
活動内容案：矢作川・家下川・承水溝・長池の高さ(水位)関係の把握、望ましい姿の検討

■第13回(地先モデル)

日時：平成25年9月20日(金)
場所：未定
活動内容案：専門家リスト、活動団体ヒアリング等について



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

川部会編 vol. 4



発行日：平成 25 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第4回川の地域部会、第12回川部会WGを開催しました！

8月26日に開催された第4回川の地域部会、第12回川部会WGでは、役員の変更を行うとともに、家下川・承水溝・長池の段差解消及び水源の確保の方法について、活発な意見交換がなされました。

日時：平成 25 年 8 月 26 日（月）18:00～20:00
会議場所：豊田市職員会館2階 第1会議室
参加者：19名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 第4回川の地域部会にて、役員の変更を行いました。

第4回川の地域部会にて、座長に愛知工業大学の内田教授、副座長に大同大学の鷺見准教授が改選されました。また、新たに、名城大学の溝口准教授が、学識経験者として選出されました。



2. 家下川・承水溝・長池の段差解消・水源確保の方法を話し合いました。



- 家下川—承水溝—長池の水位やゲート敷高等の高低差について確認し、水位を確保する方法と水深を確保する方法の2つをバランスよく行っていく必要があることを確認しました。
- 水源の確保にあたっては、周辺農地の地下水調査や、湧き水の活用、下水道管きょ・用水路の活用などの提案がありました。
- 土地改良区が実施する承水溝の浚渫（深さ）への提案を、行っていくことを確認しました。
※話し合い中のご意見は、裏面に記載しています。



3. 今年度の矢作川の実施事業について内容確認を行いました。



- 安永川改修事業については、第9回WGでの意見を踏まえ、一部コンクリート護岸への覆土を行うことを報告しました。
- 度合地区の護岸についても第9回WGでの意見を踏まえ、捨石の規模縮小、工事延長の縮小を行うことを報告しました。
- 樹木処理工事については、すべての区間を伐開するのではなく、懇談会メンバーとの現地確認を行いながら進めていくことを報告しました。
- 幸町護岸については、柳技工やそだ沈床の活用提案が、WGメンバーから出され、事務局で対応を考えることになりました。



4. 流域一体化の取組みについても話し合いを行いました。



- 山部会から「山村再生担い手づくり事例集」の作成を、海部会から「ゴミ・流木調査」への参加依頼がありました。
- 第6回いい川・いい川づくりワークショップへの参加について、事務局より提案を行い、川部会としては、参加の方向で考えていくことを確認しました。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

鷺見先生からの論点

- 承水溝の水位は家下川自然ゲート敷高(16.8m)が水深を決めている。
- 長池は、宗定川自然ゲート(敷高17.4m)により、流れがつながるかどうかが決まる。
- 宗定川の流量がないことも問題点の1つである。

(1) 家下川ー承水溝ー長池の高低差について

- ・家下川自然ゲート敷高は、承水溝の平水位で決まっているのではないかと。平常時には、家下川に流れて、洪水時には、ゲートで家下川の流れを食い止める形だと思う(本守)。
- ・宗定川自然ゲート敷高は、公園管理者が水面を確保するために決めたのではないかと(本守)。
- ・承水溝と長池の水位はどちらの方が高いのか(光岡)。> 調査時は長池の方が高かった(鷺見)。/通常はかなり低い水位である(阿部)。
- ・長池には、地下水が入っているのではないかと(本守)。> 地下水に支配されているのか、地下水が作用しているのか分からない。例えば、宗定川が地下水の最後の境界になっているかもしれないので、場合によっては、周辺農地の地下水調査をすることも必要(鷺見)。
- ・自宅近くでも手掘りで4m掘ったら、良い水が出たところもある(阿部)。

(2) 水源の確保について

- ・矢作川橋下流の土地改良区の資材置き場になっているところには湧水が出ている(阿部)。
- ・下水道マップで示されているのが汚水か雨水かを確認してほしい。雨水だとすれば将来的なバイパスとしても使うことが可能かもしれない(鷺見)。
- ・矢作川橋上流の神星工業付近に常時地下水が出ている場所がある(阿部)。> 公文御用水と呼ばれ、下水の管きよに落ちているようだ(西原)。
- ・公文御用水の横を流れる水路は、宗定川とつながっているのか(鷺見)。> 別の目的で作られた水路であり、つながっていないと思う(阿部)。
- ・公文御用水がどこに流れているのか。また横を流れる水路はどこにつながっているのかを確認してほしい(鷺見)。
- ・公文御用水を宗定川に流したら問題があるのかも市への感触を教えてください(小澤)。

(3) 長池の水位設定について

- ・承水溝の平水位は17.2m程度であり、ポンプ場のところで水位データを取っているようだ(西原)。> 長池が承水溝とつながるためには、宗定川自然ゲートの高さを17.2mより下げなければならない(鷺見)。
- ・宗定川の流量がないので長池の水位を高くする議論はできない。低くする場合には、ある程度、ゲートを深くまで下げておいて、仮止めの板を入れる方がいいのではないかと。その場合の最低水位はどれくらい必要かと(鷺見)。> 冬越しをする場所として1mくらいは必要。また、上流に向かって1部分でも水路のような深いところがあればよい(阿部)。
- ・家下川との関係で見ると、敷高で30cm程度あるので、水位を上げるだけあれば堰上げをすれば対応できる。一方、水深を確保するためには、浚渫をする必要があるがどれくらいすればいいかが課題である(鷺見)。> 現状の水深は、20cmくらいであるが、夏でも50~60cmはあった方がよい。ただし、5年前に承水溝の水位を60cm堰上げしたことがあるが、勾配がないため、かなり上流まで影響がでた。(阿部)。
- ・ポンプ場のところに水位記録があるのであれば3年程度は提供してほしい(本守)。
- ・承水溝の高さを段階的に変えて、その影響を見たらどうか(菅原)。> すぐにはできないが、整理していきたいと思う(鷺見)。

(4) 土地改良区への提案について

- ・平水位が17.2mであれば、16mくらいの濡筋を掘ってほしいというのはどうか(内田)。> ここでは時間がないので、当面は、それぞれの呼びかけに対し、アクションを起こせる人が起こしていくという方法で取り組んでいきたいかどうか(鷺見)。
- ・土地改良区へは、状況を確認しておく(阿部)。



今後の川部会 WG の予定

- 第13回(地先モデル) : 平成25年9月22日(日) 現地のみ
- 第14回(本川モデル) : 平成25年10月18日(金) 現地+話し合い
- 第15回(家下川モデル) : 平成25年11月26日(火) 話し合い





発行日：平成 25 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 13 回川部会 WG（地先の課題モデル 2 回）を開催しました！

9 月 22 日に開催された第 13 回川部会 WG では、地先の課題を対象として現地調査を行いました。各地の活動団体の代表者から説明を伺い、市民や学識経験者、行政などの方々により、多くの議論がなされました。

日時：平成 25 年 9 月 22 日(日)10:00～16:00
集合場所：新豊田駅西口ロータリー内
調査場所：矢作川本川（豊田市内）
参加者：20 名（事務局含む）

◆WGで議論した主な内容

- 今回の現地調査では、豊田市の各活動を見て回ったが、結果があがっている状況を確認できた。また、行政のバックアップが重要であると感じた。
- 大きい工事（管理用通路、広場整備など）は豊田市が行い、その後の利用や維持管理は、各地の活動団体にがんばってもらっている状況を確認できた。
- 豊田市では、実績を積んだ活動団体（現在18団体）を登録し、維持管理活動に対して、報償費を支払っている。
- 御立公園（白浜工区）の場合、拡幅工事の中で環境にも配慮しようと、施工時にワーキングを開催して地域の方々との協議をして整備した。矢作川森林塾とアドプト制度を利用して、機材の支援等を行っている。現在は、豊田東高校と連携するなど若い世代にも活動の輪が広がりつつある。
- 民間と行政が屈託のないやりとりを行っていくことが、活動をうまく進めていくコツである。

◆主な意見交換内容（●意見 ▶回答）

現地調査



(1) 古鼠水辺公園

古鼠水辺公園愛護会の村山氏より、樹木伐採箇所の対応方針について説明を伺いました。

- もともと、自分の居場所を川辺につくるために一人で活動していたが、水制工整備に合わせて、長老たちが指揮をとって 30 人ほどが集まり、活動が活発化した。
- タケを伐採すると、頂部にしか葉がない木が残ったが、時間が経つと風格ある木になってきた。
- タケの根絶には、15 年ほどを費やした。タケを割って腐らせると効果的であった。
- 昔と比べて、川の水位は低下し、貯木場にも 1 m 程度の水深があったと思う。



古鼠水辺公園での説明の様子



台風 18 号の出水でなぎ倒された竹林

- 昔、矢作川研究所が設置した水制工などの説明標識があり、わかりやすい説明や古地図が記載されていたと思う。いつの間にかなくなっている。（内田）
 - ▶ 過去の洪水で流されてしまった。（愛護会）
 - ▶ 矢作川研究所に説明標識の元版があるか確認してみる。（洲崎）
- 利用マナーについて、土日の利用者が多いため、日～月曜日は見て回っている。利用者が 100 組いれば、1～2 組不届き者はいる。いい状態に保つことが、マナー違反の抑止につながる。（愛護会）
- 行政とのかわりについて、市も県も協力的で、市河川課が調整してくれたことがよかった。台風などで壊れて地元の手には負えないときには、行政が動いてくれる。（愛護会）



元々の竹林のイメージ

- ・行政と地元が信頼関係を築くことが重要で、地元でやりたいことは、地元が先行して進めることでこれまでうまくやってきた。(愛護会)
- ・市公園課から公園の維持管理費用として補助をもらい、草刈り等の費用にあてている。

(2) 有馬水辺愛護会

- ・上流部の4団体は、河川課が整備する時に、矢作川研究所が地元呼びかけ、地元が応えてくれたことで実現した。中流部の団体は、矢作川研究所で生物に配慮した管理をやりましょうという提案をし、応えてくれる団体もいる状況である。(洲崎)
- ・豊田市の合併を機に、矢作川上流の生物調査を実施し、貴重な生物がいることがわかった。
- ・豊田市から呼びかけ、4団体が応える形で活動がスタートした。(洲崎)
- ・集落の全戸が愛護会に入っており、活動が盛んな団体の一つである。(洲崎)

(3) 小渡水辺愛護会

- ・平成19年に上流部の河川整備を行う際に愛護会が発足し、豊田市・矢作川研究所によりワークショップが開催され、平成20年からタケの伐採、管理用通路、広場の整備が進められている。(洲崎)
- ・道路の凍結防止や眺望確保のため、法面の竹林の伐採を進めている。ときつえの部落の方も、通勤等に使用する道路であり、愛護会のメンバーになり活動している。(愛護会)
- ・過疎地域にとって、観光は有効な手段であるが、一時的であるため、継続して続けることが必要である。(愛護会)
- ・刈ったタケは、竹灯笼や松明行列、こいのぼりなどの地域行事に使用するようになった。イベントで楽しまないと、ただ竹を切って維持管理するだけではもったいなく、活動が続かない。(愛護会)
- ・最近では、小学3年生に竹切り体験などを行っている。(愛護会)



小渡での意見交換会の様子



しるしをつけた稚樹

(4) 御立公園 (白浜工区)

矢作川森林塾の裕氏より、公園について説明を伺いました。

- 都市の河畔林となるよう活動している。
- 整備後に生える植物の多くは外来種であった。矢作川研究所が作成した図鑑を携帯用にパウチしたカードを確認しながら、外来種を駆除している。
- せせらぎの方は、いろんな種が生えてきていたが、台風18号でほとんど流されてしまった。
- 毎週、20~25人が集まり活動している。
- えのきの稚樹は、次世代を担う樹木となるよう、刈らないように棒を立てしるしをつけている。
- 伐採したタケは、竹チップの通路をつくろうと考えている。



台風18号の出水で埋もれた水路

今後の川部会 WG の予定



■第14回 (本川モデル) 現地調査+意見交換

日時：平成25年10月18日(金) 13:00~
内容：懇談会として、どんな瀬・淵がよいか、あり方を検討する。

■第15回 (家下川モデル) 現地調査+意見交換

日時：平成25年11月26日(火) 13:00~



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

川部会編 vol.6



発行日：平成 25 年 11 月 26 日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 14 回川部会 WG を開催しました！

現地調査では、台風 18 号による被災状況（高橋右岸付近）と県管理区間の代表的な瀬淵を現地確認し、瀬・淵の現状や課題について確認しました。意見交換では、グループワークと全体ワークにより、「瀬・淵」についての意見交換を深めることができました。

日時：平成 25 年 10 月 18 日（金）
13:15～18:00

集合場所：新豊田駅

会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室

参加者：23 名（事務局含む）

◆WGで決まった主な内容

- 多様な生息環境、物理環境を目指していくこと、その手段として、低水路幅が一つのポイントになることについて共有しました。
- 今後、動植物にとって、魚にとって、利用者（人）にとってなどの観点でブレークダウンして整理する必要がある。
- まだわかっていないこととして、越戸ダムから流下してくる土砂、越戸ダムの堆積土砂、低水路幅拡幅による河道の応答などがあることがわかった。
- 矢作川水系総合土砂管理検討委員会（以降、土砂管理委員会）に対しては、土砂供給の情報と越戸ダム下流の環境をどう捉えているかの情報提供をお願いします。
- 矢作川本川（平戸橋から下流）は治水上の重要性が高く、国交省と愛知県が連携した継続的な調査（横断測量、河床材料など）を実施できるとよい。



全体ワークの様子

◆意見交換内容

第 1 部：矢作川現地調査

現地調査では、高橋右岸付近の台風 18 号による被災状況と県管理区間の代表的な瀬・淵の現状について確認しました。



高橋右岸付近の被災の様子
（河岸が削られている）



ワンド付近の調査の様子
（出水後もワンド形状は保持）



古鼠水辺公園の対岸付近から
川道の変化状況を確認

第 2 部：意見交換



(1) グループワーク

2グループに分かれて、瀬淵の位置がわかる大判の航空写真を見ながらの意見交換を行いました。

■内田先生グループ

内田先生グループを代表して、菅原氏に発表いただきました。

- 瀬・淵の中でも、その周囲に河畔林が多かったり、地形が変化していくような場所が、良い瀬・淵だと思う。
- 箆川の下流には、浅瀬と深みが連続していて、生物がすみやすいところである。
- 外来種のオオカナダモがいるからといって、一概に悪い環境とせず、場所ごとに指標が異なるのではないか。
- 出水後に川に手を入れて、よい環境をつくっていく必要がある。



グループワークの様子



発表の様子

■驚見先生グループ

驚見先生グループを代表して、光岡氏に発表いただきました。

- 高橋上流は瀬淵が交互に連続して表れている。上下に変化があることで、生息できる生物の種類は多くなり、魚相は豊かになる。
- 久澄橋下流は上下流の変化に乏しいので、左右に変化があるとよい。白浜工区の試験施工の試みは、その点でも意味がある。
- 瀬・淵の分布が、どの程度の密度で広がっているとよいか、今後、考えていく必要がある。
- 人が水に触れやすい場所は矢作川本川に少なく、近寄りやすい場所を確保することも必要である。
- 治水面だけでなく、動植物にとって、魚にとって、人にとっての視点で見していきたい。



グループワークの様子



発表の様子

(2) 全体ワーク

全体ワークで出された主な意見は、以下に示すとおり。

- ・瀬・淵とワンドは性格が異なるので、組み合わせて考えると、多様な環境を目指せるのでは。(本守)
- ・河道掘削を工夫すれば、変動を促がせると思う。河道掘削の検討をする機会があれば懇談会に諮ってほしい。矢作ダム完成後の矢作川の癖を参考にしながら、掘削できると良い。(内田)
- ・上流から流下してくる土砂粒径がわからないことがネックなので、越戸ダム堤体近くの固定点で、堆積土砂を調査する必要がある。(内田)
- ・調査主体を中部電力に依頼→国交省・愛知県に依頼→WGで調査の3段階として、どこまで検討できるか検討する必要がある。(驚見)
- ・土砂管理委員会では土砂収支を流域全体の枠組みで計算しているが、WGとしては瀬・淵の形状が予測できる精度で流下してくる土砂の情報が必要である。(驚見)
- ・土砂管理委員会が、下流環境をどう捉えて提言しているかは確認したい。(驚見)
- ・愛知県管理区間では、横断測量や河床材料のデータが少ないため、検討するにも情報が不足している。矢作川本川(平戸橋から下流)は治水上の重要性が高いので、国交省と連携した調査ができるとうい。(内田)
→可能性は高くないが持ち帰って検討したい。継続的に実施できればよい。(清水)
- ・低水路幅を議論するには、低水路幅拡幅による河道の応答を把握することがまず必要である。(驚見)
- ・この場で具体的な目標を定めることは難しいが、低水路幅がポイントになることは、WGにおける合意事項としたい。(内田)
- ・河川整備計画では、矢作川本川にまだ河道掘削する場所が残っており、WGとの共同研究テーマになるのではないかと。(本守)
- ・みんなが利用する環境や漁業・釣り、生物の観点でブレークダウンして整理して、何に貢献する多様性を考えるのか議論する必要がある。(驚見)
- ・多様な生物生息環境とその物理環境を目指すことは合意できたと思う。(内田)
- ・上流の境界条件がわかったとして、大河川で土砂供給のシミュレーションを実施した場合に、結論は出せるか。(本守)
- ・短期的には計算できると思うが、長期的には確率的な問題があり難しいと思う。(溝口)

今後の川部会 WG の予定

■第15回(本川モデル+家下川モデル)

日時:平成25年11月26日(火)18:00~20:30

場所:豊田市職員会館(予定)

活動内容案:矢作川の河川環境の方向性(本川モデル)
水源確保(家下川モデル)等

■第16回(地先モデル+α)

日時:平成25年12月20日(金)18:00~20:00

場所:未定

活動内容案:地先モデルの各検討課題に
ついて意見交換



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。





発行日：平成 25 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 15 回川部会 WG を開催しました！

第 15 回川部会WGでは、本川モデルと家下川モデルに対して、参加者全員による意見交換を行い、情報共有と解決の方向性について検討を深めました。

日時：平成 25 年 11 月 26 日（金）
18:00～21:30
会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室
参加者：22 名（事務局含む）

◆WGで決まった主な内容

- 本川モデルについて、治水上の制約を考えつつ、白浜工区（順応的管理手法）の経過を観察して、低水路幅の拡幅後の河道の応答を確認しながら、WGとして矢作川の河川環境の多様性を保全・創出していくための解決策について検討していくこととした。
- 家下川モデルについて、排水機場の耐震対策の改修に伴い、長池 - 承水溝の水門位置を変更する必要があることから、段差解消の可能性をWGで検討する。また、承水溝の浚渫については来年度に実施する予定で、その浚渫方法についてWGで検討する。
- 来年度までWGの活動が停止してしまわないよう、2～3月にWGや勉強会などで、検討がつけられるとよい。



WGの様子

◆意見交換内容

1. 本川モデルワーク

第 14 回WGに引き続き、瀬・淵など川のあり方、理想像、方向性等について意見交換を行いました。主な意見交換の内容は以下の通りです。

- ・ワーキングには、「知るということ」と「アクションにつながっていくこと」の2つがある。また、「流域全体を考えるレベル」と「どういう応答になっているかという現場レベル」で考える必要がある。双方のバランスをとりながら、議論を進めていければよいと思う。（鷲見）
- ・瀬・淵の現状をどう考えているかについても整理しておく必要がある。（内田）
- ・川が複雑に入れ替わったり、変化したりする場所は、水生昆虫にとってもよい環境だと思う。（内田）
- ・今の状況下でできることを考えることが、まずWGの出口（結論）の一つ。もう一つは、根本的な問題としての土砂や流量の話があり、土砂については、土砂管理検討委員会で検討されていることから、WGでも考えてみるとよいと思う。（鷲見）
- ・時間による変化と川の縦断的な変化の有無があり、それらを把握した上で、現状を保全していく場所と改善を求めていく場所を設定してみてもどうか。（光岡）
- ・瀬淵は、現状のままでも縦断的に連続して存在し続けると思うが、横断的なギャップは大きく、浅瀬が少ない状況である。ちょっとした雨でも川幅が変化するような場所ができるとよい。（阿部）
- ・漁協では、アユの釣りやすい釣り場を固定する取り組みが行われてきた。漁協との議論も必要になる。（内田）
- ・川の中の場の割合の議論だと思っており、どういう多様な場を、どれだけのエリアにどれだけの割合を配置していくかを考えていければよいのでは。（鷲見）
- ・漁協は川幅を狭くして釣り場を作りたいのかもしれない。低水路を狭めて掃流力は強くなったが、アーマー化が進んでいる印象である。（阿部）
- ・どこにどういう場所があるかをパターン分けしていくことをやってみてもどうか。（鷲見）
- ・そのためには、地形を把握する必要があり、航空レーザー測量ができるとうい。（内田）
- ・昭和 47 年洪水は、矢作ダム建設前の出水なので、詳しく調べれば矢作ダムがないときの状況がわかるのではないかと。土砂を考える時に、矢作ダムの検討をはずすわけにはいかないと思う。（本守）



モデルワークの様子

- ・下流のダム群について、中部電力に協力してほしいところである。(内田)
- ・愛知県の整備計画を立てようとしている河川については、粒径調査をしている可能性がある。(愛知県)
- ・国交省と愛知県で、統一的な考え方で整備していくことを提案していくことも考えられる。(内田)
- ・治水上の検討をしっかりとっていただいた上で、WGとしての提案が可能になると思う。(本守)
- ・川幅の制約条件があるのであれば、それを利用して、狭くなる場所と広がる場所の両方できることの多様性を担保できればよい。(鷺見)
- ・河道拡幅について、高橋付近はまだ具体化していないが、白浜工区右岸について具体化する可能性がある。(小林)
- ・白浜工区は、これまでに洪水を受けているので、どういった変遷をしたかの結果を踏まえて、河道拡幅に対する提案ができるとうよい。(鷺見)
- ・白浜工区をモニタリングすると、池やせせらぎが閉塞し、石を積んだところに土砂堆積するなど状況が変化している。一年中、小さい魚がいることは観察できている。(小林)
- ・白浜工区の低水路拡幅箇所は、元々土砂が堆積していた場所なので、元に戻ろうとしている。(阿部)
- ・治水上の制約を考えながら、白浜工区の状況を見て、川幅を広げてみたらどうなるかを観察しながら、矢作川の河川環境についてWGとして検討していきましょう。(内田)

2. 家下川モデルワーク



家下川リバーキーパーズの安部氏より情報提供があり、今後の検討の方向性について意見交換を行いました。

- ・上郷排水機場改修に合わせた承水溝の浚渫について来年度に実施する予定と聞いており、浚渫の仕方について提案を実施できる時間ができた。(阿部)
- ・震災対策で排水機場位置を移動して改築を計画(H27~32年頃)しており、長池 - 承水溝の水門位置を移動する必要があると聞いている。長池 - 承水溝の段差解消を考える機会であり、流域圏懇談会として管理者に提案できるとよい。(阿部)
- ・長池 - 承水溝の水門付け替えについて、懇談会として検討したいことを管理者に依頼していくこととする。(鷺見)
- ・長池の水源になっている宗貞川の状況について、現地を確認する必要がある。(本守)

3. 次回以降のワーキングについて



今後の川部会WGのすすめ方も含めて、次回以降のWGについて意見交換を行いました。

- ・毎年ではあるが、12月以降にWGが開催されず議論が止まってしまうのは良くない。来年度のスケジュールは、全体会議をやらずに地域部会で取りまとめを行い(とりまとめの簡素化)、冬期間にもWGを継続できるようにしてもよいのでは。(鷺見)
- ・年度も2~3月にWGや勉強会などを開催して、議論が継続できるとよい。(内田)
- ・WGの3つ目の役割として、WGの活動内容をまとめて形にすることがある。(鷺見)

今後の川部会WGの予定



- 第16回(本川モデル+家下川モデル)
日時：平成25年12月20日 18時~20時半
場所：豊田市職員会館
活動内容：地先の課題モデルの課題と解決の方向性について/家下川下流の環境について

- 第4回川の地域部会
日時：平成26年1月16日 15時~
(2時間程度を予定)
場所：未定



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。





発行日：平成 25 年 12 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 5 回家下川リバーキーパーズの活動に参加してきました！

家下川リバーキーパーズの活動に参加し、2012 年に西大排水路に設置された第 2 越冬マスをかいはり調査しました。網入れ時間わずか 1 分 45 秒の間に、14 種 3,000 尾以上の魚を捕獲することができました。

日時：平成 25 年 12 月 1 日 (日)
9:30~14:30

会議場所：上郷交流館

作業場所：第 2 越冬マス (西大排水路)

参加者：62 名

◆主な活動内容

1. 開会式・メダカ大学



メダカ大学では、2 部構成+自己紹介のセッションがありました。

1 部では、家下川リバーキーパーズの近年の活動から以下のような報告がありました。

- 生物の目線に立った小技を効かせた工夫をすれば、大がかりな河川改修などしなくても十分に効果が生まれることがこれまでの活動で十分に実証された。
- 3 面コンクリートのような人の手が入り過ぎた場所でも、生息環境さえ整えば生物は巧みに利用し生きていくことができる。
- 人伝えの情報や一般論よりもまずは自分自身の目でフィールドを見て確かめる必要がある。



メダカ大学の講義の様子



自己紹介の様子

2. 調査



マスの周りを土嚢で囲った後、水中ポンプで水を抜き採集しやすい状態に準備し、調査開始となりました。調査は 2 班に分かれて、「採集」「魚の仕分け」「計数」の 3 つの作業を行い調査しました。各班の中で 3 つのグループに分かれて、役割をローテーションしながら作業を行いました。採集は、15 秒程度の時間を設定して実施されました。(採集者は各回 4 名程度×2 班、のべ採集時間：1 分 45 秒)



採集の様子



魚の仕分け+計数の様子



小学生の捕獲タイム



3. 食事+観察会

調査後は、子どもたちがつくった水族館（魚の展示）で、家下川にいた魚を改めて観察しました。

田園風景を見ながら、おにぎりとおたたかい豚汁をご馳走になりました。



こどもたちによる展示の準備の様子



魚の観察の様子

■捕まえた魚（一部）



4. まとめ・閉会式



網入れ時間は合計してもわずか1分45秒間でしたが、調査の結果、14種3,000尾以上の魚を捕獲したことがわかりました。もっとも多かったのは、オイカワでした。絶滅危惧種のスジシマドジョウも採集することができました。（※ 調査結果については、家下川リバーキーパーズにより取りまとめています。）

最後に、豊田土地改良区の佐藤氏と矢作川研究所の内田氏より閉会の挨拶がありました。



調査結果発表の様子



閉会の挨拶の様子

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。





発行日：平成 26年 1月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 16 回川部会 WG を開催しました！

各モデルのとりまとめに向けて、今年度最後のWGを開催しました。地先モデル、家下川モデル、本川モデルの3部構成で、これまでの活動を振り返り、わかったことや今後検討する必要があることなどについて、意見交換を行いました。

日時：平成 25 年 12 月 20 日（金）18:00～21:30
会議場所：豊田市職員会館2階 第1会議室
参加者：16名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1. WGの内容



第1部：地先モデル

- 専門家リストについて、必要な情報として名前と所属、大卒の専門分野を示し、分野や場所でソートするなど使いやすいものを目指す。掲載候補者について、WGメンバーで各分野のキーパーソンになる人を提案する。
- 活動環境に関する課題について、活動がうまくいくための仕組みとして、どんなパターンがあるか整理できるとよい。活動がうまくいっている事例とそうでない事例の両方を確認していく必要がある。
- 地先モデルを進めていく上で活動団体のリストが必要であり、各管理者が把握している団体を事務局に提供する。



WGの様子

第2部：家下川モデル

- 阿部氏から第5回家下川リバーキーパーズの活動（12/5実施）とこれまでの活動による効果について報告いただき、モニタリングにより、ブロック堰周りで生き物の棲みかが確保されていることや矢板カットによる移動阻害の改善効果があったことがわかった。
- 草の植え付けは、水路の増水で流れてしまった。コンクリート河床の改善や承水溝の浚渫、石組の漁礁、草を定着させる方法などを検討する必要がある。
- 排水機場の計画について、基本構造検討後にWGで提案できる状態にする必要がある。

第3部：本川モデル

- 本川モデルの各課題の情報共有が進んだ。（右表参照）
- 白浜工区について、完成して1年が経過していい環境になっていたが、台風18号の出水でかなり変化した。順応的管理の中で、少し手を入れて整える必要があることを確認した。
- 河川環境の方向性について、WGとしての取りまとめが進んだ。生物にとっての土砂、流量による攪乱頻度の視点も必要である。
- 今後、総合土砂管理検討委員会で検討されている水系全体の議論とWGで検討されているローカルな議論を行き来しながら検討できるとよい。委員会の検討状況の情報が必要である。

主な報告事項（報告者）	主な事項
カワヒバリガイ （内田座長）	・確認された生息範囲が拡大
アメリカナマズ （山本氏：矢作川研究所）	・ポスター掲示による情報提供の呼びかけ ・わかってきた生態について
白浜工区（事務局）	・完成一年後のいい環境 →台風18号による変化
瀬淵（鷲見副座長）	・縦断図により、水面下の河床の凸凹が明確に

2. 意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 地先の課題モデル

- ・新編豊田市史や名古屋市史が編纂中であり、そのメンバーにあたってみてはどうか。(内田)
- ・各分野のキーパーソンになる人を事務局に提案することとしてはどうか。(本守)
- ・利用ルール・啓発について、市ごとのルールを比較できるとよい。
- ・うまくいっている活動事例を紹介して共有する仕組みが必要である。(内田)
- ・地域住民と行政の間で屈託のないやりとりができればうまくいくのか、矢作川研究所のように第三者的な機関が必要か。活動がうまくいくための仕組みとして、どんなパターンがあるか整理できるとよい。(鷺見)
- ・河川敷は、河川管理者 - 公園管理者 - 利用者の関係があり、利用者にとってどうあればよいか、いずれ考える必要がある。(鷺見)
- ・各管理者にアドプト制度などの登録をしている活動団体があつたら、事務局に活動団体のリストを提供いただけると有り難い。(事務局)

(2) 家下川モデル

■上郷2期地区排水計画について

- ・排水機場の計画について、計画が固まってからでは、意見を言っても変えられないのではないかと。今の段階で提案できるとよい。(本守)
- ・長池との接続をキープし、敷高を下げられる構造にしてもらうことが第一である。(鷺見)
- ・基本構造が固まっていない状況で、2~3月頃であれば、計画案を提示することができると聞いている。(事務局)
- ・できる限り早い時期に相談できるよう事務局から依頼していただきたい。(内田)

■優先的に検討すべきことについて

- ・上郷排水機場の計画があり、できる限り早い段階でWGで検討に入る必要がある。(内田)
- ・その他に、長池の水源の問題、承水溝の浚渫形状の検討がある。(鷺見)
- ・中長期的な議論も必要ではあるが、大きな動きに対して提案していくことを優先課題としたい。(内田)

(3) 本川モデル

■白浜工区について

- ・白浜工区はかなり環境が変化してしまったので、順応的管理の中で手をを入れて整えられるとよい。(鷺見)
- ・安部氏にアドバイスをいただきながら、半日程度の重機を使った作業であれば可能と考えている。(小林)
- ・鷺見研究室で作業後の地形を測量を実施し、今後、河床の応答状況をモニタリングしていくことにしたい。WGの活動の一つとして、測量をやってみてもよいと思う。(鷺見)

■河川環境の方向性について

- ・総合土砂管理検討委員会の水系全体の議論とWGのローカルな議論を行き来しながら検討できるとよい。土砂と地形の応答は基本的な知見が必要であり、総合土砂管理検討委員会で考えてもらえるとよい。(鷺見)
- ・生物にとって重要なのは、攪乱頻度であり、土砂バイパスは大きな問題になる。(内田)
- ・土砂だけでなく、流量でも攪乱は起きるので、川の生物にとっての攪乱頻度など考える必要がある。(鷺見)
- ・総合土砂管理検討委員会に対して、WGでの議論を伝える必要がある。(内田)
- ・オブザーバー参加の依頼があることを総合土砂管理検討委員会に伝えていただきたい。(鷺見)

(4) 今後の進め方

- ・次回は、1月16日に第4回川の地域部会を開催する。(事務局)
- ・次回の市民企画会議では、山川海の連携をどう図るかの議論ができるとよいと考えている。(事務局)
- ・最近、市民側の出席が少なく、出席を増やす方法がないか考える必要がある。(本守)
- ・1月22日の「いい川」づくり研修会で、西原氏、安部氏から話題提供がある。(事務局)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。





発行日：平成 26 年 2 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 5 回川の地域部会を開催しました！

川部会の今年度最後の会議として、川の地域部会を開催しました。
本川モデル、家下川モデル、地先モデルについて、今年度の活動成果のとりまとめと来年度の活動計画（案）について話し合い、川部会として、全体会議に報告する内容を確認しました。

日 時：平成 26 年 1 月 16 日（木）14:00～17:00

会議場所：豊田市産業文化センター 大会議室

参加者：25名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1. 地域部会の内容



■活動成果報告について

- 本川モデルの微地形の多様性について、低水路の幅が色々な微地形や生物の生息場所にと大きな関係があり重要だということを記述する。
- 川幅を単調に広げればよいわけではなく、人間や生物、魚場、景観など色々な都合があり、目的の多様性と場の多様性も含めて考える必要があることを確認した。



■来年度の川部会の活動計画（案）について

各モデルの来年度の活動内容について意見交換し、方針を決定しました。

【本川モデル】

- 生き物の移動阻害（加茂川の段差改善の検討、作業の実施）と微地形の多様性について、優先的に検討していくことを確認した。
- 国や各自治体の計画や工事の情報提供は、早めのスケジューリングを心がけ、モデル地区にとらわれずに、積極的にWGに情報提供いただくこととし、WGで議論しているものにしていくことを活動の一つに位置付けることとした。



【家下川モデル】

- 排水機場の改修に伴う承水溝 - 長池の段差改善は、短時間の検討が必要であることを確認した。また、農業用水路がある他地域にも応用が利く承水溝の浚渫についても、優先的に検討していくことを確認した。



【地先モデル】

- 活動団体のマップについて、WGメンバーで情報を持ち寄ってマップを作成していくことを確認した。
- 流域圏懇談会の川部会が全ての地先の問題を解決できるわけではなく、どう関わられるかの議論をしていく必要があることを確認した。



■活動運営に向けて

- モデルを設けた時の初心に立ち返り、各モデルの検討に進展があれば、流域全体に還元することを念頭においてWGを進めていくことを、一つの活動方針とする。
- モデルだけに当てはまる成果ではなく、流域全体に適用できる成果とするために、実現の手段やプロセス、チャンネル（人と人のつながり）というノウハウを蓄積することを目指す。
- 来年度（全8回のWGとした場合）は、本川モデル：3回、家下川モデル2回、地先モデル：3回とする。

2. 意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 活動成果報告について

- ・魚にとって、川幅はただ広ければ良いというものでなく、川の中に変化が必要である。(新見)
- ・低水路幅が微地形や生物の生息場所に大きな関係があり重要であることを本文に記述してほしい。(内田)
- ・人間、魚場、生物生息場など色々な都合がある中で、どの割合でどんな場を用意すればよいかという考え方もある。目的の多様性と場の多様性も含めて考える必要がある。(鷺見)

(2) 来年度の川部会の活動計画(案)について

【テーマ①生き物の棲みやすい川づくり：本川モデル】

- ・矢作川の河川整備計画について、もう一度説明を聞いて理解した上で、毎年どのような事業、どのような工事を実施しているかを捉えていく必要があると考える。(本守)
- ・早めのスケジュールリングにより、コミュニケーションできる時間を確保できるとよい。(鷺見)
- ・工夫すればもう少し早い段階で計画・工事の情報を出すことができそうである。(事務局)
- ・災害復旧も含め、河川事業は全て多自然川づくりの考え方で実施することになっているので、WGに相談することで、より良い川にできる仕組みになるとよい。(本守)
- ・次年度の活動には、情報共有の場、現地調査の場、バックグラウンドでの検討の場があり、やることはたくさんある。活動にうまくメリハリをつけてはどうか。(鷺見)
- ・昨年度から議論が集中している生き物の移動阻害(加茂川の段差改善の検討、作業の実施)と微地形の多様性について、優先的に検討することとする。(内田)
- ・白浜工区について、研究室で面的な調査を実施予定で、WGでも調査活動の日を設けたいと思う。(鷺見)

【テーマ①生き物の棲みやすい川づくり：家下川モデル】

- ・短時間の検討が必要な事項として、排水機場の改修に伴う問題がある。承水溝の浚渫は、農業用水路がある他地域にも応用が利く問題であり、優先的に検討していく必要がある。(鷺見)
- ・いずれも、事業主体との連絡漏れがない体制にしておく必要がある。(内田)
- ・水量不足については、長池(ひょうたん池)だけでなく、家下川本川も課題になっているので、そのように表現していただくとよい。(本守)
- ・家下川については、現在の方針を微修正で対応することとする。(内田)

【テーマ②地先の課題：地先モデル】

- ・活動団体のマップについて、各自治体が把握している情報を共有できれば、充実した地図になるのではないか。事務局と行政まかせにせず、皆で情報を持ち寄ってマップを作成してはどうか。(内田)
- ・今回、私のところで把握している活動団体のリストを持ってきた。川筋の活動団体にヒアリングするならば、各自治体にも協力してもらい、覚悟を決めて取りかかる必要がある。(本守)
- ・流域圏懇談会の川部会が全ての問題を解決できるわけではなく、地先の課題に対して、どう関われるかに議論の余地があり、議論すること自体が活動の一つになる。(内田)

【活動運営に向けて】

- ・自分たちの活動に対して議論の内容が直結していない感じがしており、これからの活動として、事業や工事などモデルに関係なく取り上げて、地先に関わっていく必要がある。(光岡)
- ・実現の手段やプロセス、チャンネル(人と人のつながり)というノウハウを残すことによって、モデルだけにしか当てはまらない成果ではなくて、広く流域全体に使えるような形の成果にしていくことができる。(鷺見)
- ・山・川・海でつながるものに、水、土砂、ごみ・流木、人の意識などがあるが、現時点で共通して取り組める課題が見出しにくく、全体会議で議論できるとよい。(鷺見)
- ・本川モデル3回、家下川モデル2回、地先モデル3回の割合でどうか。その他に、夏丸さんの活動と連携したい。また、地先で活動している市民団体との関係を強化する方向でいかがか。(内田)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

